



町立病院だより

1月27日から

「もの忘れ外来」を開診します

高齢化の進展とともに認知機能の低下などに悩む町民のため、町の政策でもありました「もの忘れ外来」を開診します。特定医療法人社団千寿会三愛病院（登別市）の協力により、当面は月1回（毎月第4木曜日午後）、医師1人の派遣により3人（基本的に新規の患者を対象にした予約制）に限り外来診療します。診療時間は13時30分～16時30分。

常勤医退職のお知らせ 今年4月1日採用の小串哲生医師が、急な意向となりましたが、体調不良と療養目的から12月で退職いたしました。ご不便をお掛けしますが、後任の内科医の着任は2月を予定しています。

休診：1月6日(木) 風間医師

問い合わせ先：町立病院 ☎82-2181

情報ノート

町立特養ホーム寿幸園 4月1日から民営化

14年の同園指定管理者の実績を持つ社会福祉法人天寿会に移譲



町は町行財政改革推進計画で掲げる「民間が行うことにより効率的・効果的なものは民間に任せる」との位置づけから、町立特別養護老人ホーム寿幸園（定員55人）を4月1日から民営化します。

社会福祉法人などが提供する介護サービスが多種多様化する中、町が行政サービスとして実施するよりも社会福祉事業を行うことを目的に設置された社会福祉法人に事業自体を譲渡することが最適と判断しました。高齢者人口の増加に伴う介護保険制度を取り巻く環境の変化、介護報酬の見直しなどにより求められるコストを抑えた最適なサービスの提供、全国、全道で多く見受けられる公設公営から民設民営への経営形態の変化などが背景にあります。

町は「寿幸園民営化に向けた基本方針」を策定し検証を重ね、移譲法人の選定にあたっては、現在入居されている利用者や家族が引き続き安心して利用できるよう、継続的な介護サービスが求められると、平成19年4月から同園運営の指定管理者に指定している社会福祉法人天寿会を移譲法人に選定しました。長年の運営に基づく特色の持続、発展を優先することが重要と捉え、同法人と協議を進めてきました。

12月8日には寿幸園建物・設備の無償譲渡、土地の無償貸与、条件などを含む合意の覚書を締結。同法人の堂前文男理事長と戸田安彦町長が調印しました。堂前理事長は「民間の考え方を取り入れながら町民のためにさらに向上できるよう頑張りたい」と話していました。議会の承認を得て4月1日から民営化の運びとなります。



知っておこう
アイヌ文化

イパプケニ

イランカラブテ。風や波の音、動物の鳴き声など、自然界には多くの「音」が存在し、アイヌ民族もまた、その「音」に注目し、暮らしに活用してきました。例えば、アイヌ民族の楽器、ムックリは竹から作られ、自然界の様々な音に似せた音色を奏でることができます。そして、その美しい音色は人々を引き寄せ、魅了します。

「音」で人を魅了させるだけでなく、動物の注意を引きつけることが目的の道具があります。その道具とは、アイヌ語でイパプケニなどと呼ばれるシカ笛で、木片を凸状に削って穴を開け、振動させて音を出す部分には、シカの膀胱や耳の皮、サケ、マス、カエルの皮などを張ります。

山でイパプケニを鳴らすと、「ピーピー」という音を聞いたオスジカは、他のオスジカが自分の縄張りに入ってきたと思い、追い出しにやってきました。あるいは、メスジカの鳴き声を真似た音で誘い出すこともあります。かつては、秋から初冬にかけて、繁殖期を迎えたシカの鳴き声をイパプケニで真似て、音を発することで呼び寄せ、弓矢で射止めたのです。



イパプケニ

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301